



Own It

Recruitment Handbook



**EXPLORE YOUR
CAREER WITH US**

We are ICON.

ICONは、新しい医薬品、医療機器の開発を促進・支援することで、人々の健康とよりよい暮らしの実現を目指します。

ICONは臨床開発分野におけるグローバル・リーディングカンパニー。現在も世界の臨床開発の市場規模は拡大の一途にあり、その中でCRO*が占める割合も大きく伸び続けています。近年は特に国際的に医薬品、医療機器を開発する流れが広がっており、国内においても約6割をグローバル治験が占めるようになりました。私たちICONへの期待はますます高まっています。

*CROとは「Contract Research Organization」の略で、日本語では「医薬品開発業務受託機関」と呼ばれます。

CROは製薬会社やバイオテクノロジー企業などから依頼を受け、医薬品や医療機器の臨床試験（治験）を代行する専門機関です。

ICONの3つの強み

グローバルな事業基盤

CRO業界は世界的な規模で集約が進んでおり、上位7社で世界シェアの4分の3を占める状況にあります。ICONの世界シェアは約15%。トップを競う2社のうちの1社です。

臨床開発における高い専門性

他社が関連分野に事業を横展開していく中、ICONは臨床開発分野に特化して研鑽を積み上げてきました。臨床開発分野における多様なスペシャリストが豊富に在籍すること。また、臨床開発の早期段階から、市販後までを網羅したサービス群もICONの強みです。

独自のテクノロジーとイノベーション

AIなどの最新のテクノロジーを業界に先駆けて導入。また、統計解析を用いた臨床試験デザインに取り組むなど、臨床開発におけるイノベーション創出に積極的な投資を行っています。

TOP Message

新しい時代のリーディングCROに。

臨床開発のあり方は現在、大きな変革を迎えています。まず、その一つが国際化です。現在、複数の国と地域で同時に新薬を開発するグローバル治験が主流となり、日本国内でもその割合は6割を超えています。また、開発環境も着しく進化を遂げつつあります。DCT（分散型臨床試験）やRWD（実臨床データの活用）などの革新的なアプローチ、さらにRPA（Robotic Process Automation）やAIなどの最先端テクノロジーの導入により、臨床開発の各領域で日々新たな進展が見られます。私たちICONは、こうした新しい時代の先駆者となるCROでありたいと考えています。日本の臨床開発を新しいステージに引き上げ、医薬品、医療機器開発の促進を通じて、日本の医療発展に貢献することを目指します。私たちと共に新たな挑戦に取り組み、未来を切り拓いていく情熱を持った皆さんをお待ちしています。

求めるのはプロフェッショナルリズム。

私たちが最も注力していることの一つは、プロフェッショナル人材の育成です。臨床開発という仕事は高度な専門性を要求され、一人ひとりの力量がプロジェクトの成功、さらには企業の発展に直結します。このように臨床開発モニター（CRA）は大きなやりがいのある職業です。入社後には必要な知識や技術をしっかりと身につけるためのトレーニング機会が豊富に用意されています。また、多様なキャリアパスや一人ひとりの希望に沿った働き方も整っており、あなたの成長と生活を全面的にサポートします。もしあなたがCRAという仕事に魅力を感じているのなら、何も心配はいりません。プロフェッショナルとして成長したいという気概と、新しい薬を世に出すことに貢献したいという強い思いだけを持って、私たちの扉を叩いてください。

新しい薬を世界中の患者さんに。

医療が目の前の患者さんを助ける仕事であるならば、薬の開発とはその薬を待っている世界中の人々を救う仕事です。私自身、30年近くにわたり臨床開発の現場に身を置いてきました。一つの薬が世に出るまでには長い時間がかかり、成功よりも失敗の方が圧倒的に多いのが現実です。しかし、その苦難を乗り越え、薬が市場に出たときの喜びと感動は何にも代えがたいもの。多様な領域のプロフェッショナルが互いに助け合いながら、さまざまな困難を乗り越えていくとき、きっとあなたもこの仕事の真の素晴らしさを体感することでしょう。この仕事には一生をかけて取り組むだけの価値がある。私はそう確信しています。ぜひ私たちと共に、新しい薬を世界中の患者さんに届けるための挑戦に参加してください。

ICONクリニカルリサーチ合同会社

社長 小川 淳 (Atsushi Ogawa)

ICONの職場 先輩社員の声

東京オフィス勤務 CRA

安西 龍毅 (Ryuki Anzai) / 2023年入社

闘病中の祖母の姿から、新薬の開発を志すことに。

私の祖母は糖尿病患者でした。幼い頃、「これはお薬だよ」と彼女が話していたものが、インスリンであることを後から知りました。インスリンの開発によって世界中でどれほどの命が救われたか。そのことに深く感銘を受け、私も創薬の仕事を志しました。薬学部で学ぶうちに、薬を創る過程の中で「医薬品開発」が最も時間とコストを要すると知り、医薬品を早く届けるには？という観点でCROに興味を持ちました。ICONを選んだ理由は、世界的なリーディングカンパニーでありながら、日本国内ではこれから成長期を迎える、まるでベンチャー企業のような魅力を持っていたから。成長期にある企業に身を置くことで、幾多の機会と迅速な意思決定が望め、キャリア形成に恵まれた環境だと確信しました。



データの向こう側には、人間の温かい思いがある。

血液癌の治療薬の治験立ち上げに携わったときのことで。先生を含めた医療機関スタッフと協議を進める中で、治験対象の候補患者さんがいると判明しました。生命予後に影響する疾患であり、何とか間に合わせたい。社内外のスタッフ全員でサポートを強め、治験開始を予定より早めたことで、その患者さんは治験参加に間に合いました。また、小児用成長ホルモンの治験では、患者であるお子さんに治験内容を理解していただくための説明文書の制作に工夫を施しました。可能な限り平易な言葉を使い、各所にかわいいイラストを挿入し、怖がらず安心して治験に参加いただけるよう取り組みました。私たちの仕事は患者さんには会えず数字とデータに基づくものです。ただ、その背後には温かい人の思いがある。そんな仕事だと学びました。



初めてのプロジェクト、リーダーの言葉がくれた勇気。

初めてプロジェクトに配属されたときのこと。ベテランのプロジェクトリーダーから「僕は君に遠慮したくない。だから、君も僕に遠慮しないでほしい。わからないことは何でも聞いてくれ」と言われた瞬間、緊張が一気にほぐれました。同時に、自分もプロジェクトメンバーとして期待されているんだと胸が熱くなり、「よし、やってやる」と気持ちが昂りました。その後、実際に遠慮せずに何でも聞き、失敗も経てたくさんのことを学びました。今振り返ると恥ずかしい質問も多かったですが、それが成長の糧となりました。将来、自分がプロジェクトリーダーになったときは、メンバーに同様の言葉をかけ、彼らの背中を押してあげたい。この言葉がCRAとしての私の原点になりました。



休日の過ごし方

ハマっているのは海外サッカー。応援しているチームの試合はぜんぶ見えています。月曜の午前4時から開始の試合のときは、見終わってそのまま仕事に行くことも。そんな日はフレックスを活用して午後3時には仕事を切り上げます。好きなチームのファン同士でフットサルを楽しんだり、一緒に試合を見たり、ヨーロッパまで観戦に行ったり。オフも充実しています。



大阪オフィス勤務 CRA

加地 奏絵 (Kanae Kaji) / 2023年入社

農学部出身の私が、CRAを志した理由。

大学生の頃、骨粗しょう症だった祖母が新薬の恩恵で急速に回復する様子を目の当たりにし、薬の力に深く感銘を受けました。80代後半だった祖母の骨年齢が70歳代レベルまで改善したのです。この経験から、私もいつか薬を開発する仕事に就きたいと強く思うようになったのです。しかし、私は薬学部ではなく農学部所属しており、学生生活が長かったこともあって、CRAを目指すことに正直なところ不安がありました。そんな中、就職活動でICONの面接を受けた際に、「ICON JAPANは現在発展途上の企業であり、さまざまなポジションが生まれています。ぜひ加地さんも私たちと一緒に成長してほしい」という言葉をかけられたのです。このひと言で「失敗を恐れる前に、頑張ればいいんだ」と前向きな気持ちになれたことを今でも鮮明に覚えています。



オフィスワーク・在宅勤務を使い分けています。P.8をご覧ください。

4ヶ月の導入研修で、不安が消えました。

入社後の導入研修は、私にとって大きな支えとなりました。まずは新卒の同期やCRA未経験の中途採用の人たちと共に1ヶ月の集合研修を受け、たくさんの仲間と親しくなることができました。研修の途中で外国人講師による英語での講義があると聞いて緊張しましたが、日本人トレーナーが事前に内容を説明してくれたおかげで、正しく理解することができました。研修の後半には実際の医療機関とのやりとりを模した本番さながらの模擬トレーニングが行われました。情報収集から始め、ドクター役の講師にメールでアポイントを取り、面談をするという流れです。忙しいドクターからいただいた貴重な30分ですべてをやり切る必要があります。事前準備の大切さ、そして、自分で考えて自ら動くことの重要性を深く学びました。



前人からバトンを受け継いでいく仕事。

研修終了後は先輩について仕事を学ぶ日々が続きました。ある日、システムのトラブルが発生し、医療機関との間に緊張が走り、「どうなるんだろう？」と心配性の私でしたが、「大丈夫、まずは一つずつ解決していこう」。そう言って周りを勇気づける先輩はなぜか楽しそうにすら見えて、本当にかっこよく、自分もこんな人になりたいと思いました。この春、初めてのプロジェクトにアサインされ、うれしさと同時に身の引き締まる思いを感じています。引き継ぎ資料を見ていくと、何年にもわたって多くの人たちがこのプロジェクトに関わってきたことがわかります。こうやって次の人にバトンをつないでいく仕事なのだ実感しました。自分もいつか次の人にバトンを渡す。だからこそ、しっかりと仕事をしよう。そう決意しました。CRAとしての私の旅はここから始まります。



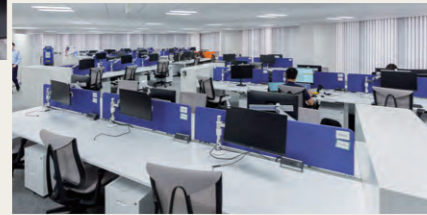
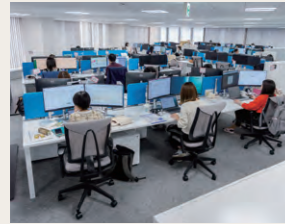
休日の過ごし方

私はどちらかといえばインドア派で、週末はゲームやドラマを楽しんでいます。土日のどちらかは友人とランチに出かけることもありますね。最近、アウトドア好きの姉や父の影響でハイキングを始めました。まだ初心者コースを歩くだけですが、自然の中を歩くのは気持ちがよくて、クセになりそうです。





大阪オフィスは広いワンフロアでつながった構成です。ブルー、グリーン、オレンジ、バイオレットの4色のブロックにわかれています。

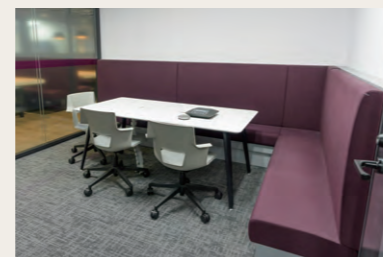


フリーアドレスの席があり、予約すれば好きな席を使うことができます。他にも、気分を変えて作業をしたいときや、ちょっとした打ち合わせに使えるスペースがいろいろ。

Osaka Office



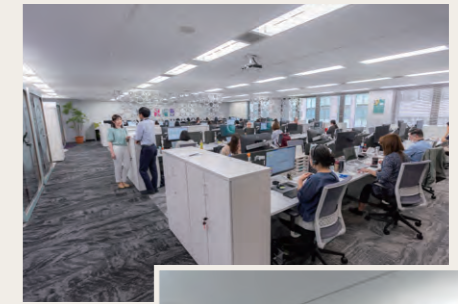
大阪オフィスには2ヶ所のリラクゼーションスペースがあります。コーヒーマシンなどが置いてあり、自由に利用できます。ここでランチを食べる人も多いです。ちなみにダウンライトはフラスコの形になっています。



来客用のスペースやミーティングルーム、オンラインミーティングにも活用できるブースがたくさんあります。



エントランスのデザインは、グローバル企業らしく世界中で統一されています。



東京オフィスにもフリーアドレスのデスクがあります。ワンフロアをつなげた広いスペースです。

Tokyo Office



東京オフィスのリラクゼーションスペースはライトグリーンで統一感のあるデザイン。こちらもコーヒーやお茶などを自由に飲むことができます。ランチタイムや休憩はもちろん、カジュアルな打ち合わせに使うことも。



オフィスには個室ブースがたくさん用意されています。社内外のオンラインミーティングや1on1ミーティング、集中して作業をしたいときなど、さまざまな場面で活用できます。



大小さまざまな会議室があり、大型のモニターで複数人とのオンラインミーティングもスムーズに行うことができます。在宅勤務の人ともコミュニケーションしやすいようになっています。

チームワークを大切にしたいトレーニングやイベントを実施

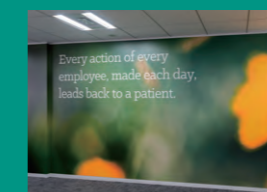


入社後、まずは大阪オフィスで約1か月の座学研修があります。その後は、東京と大阪に分かれますが、オンラインで繋ぎながら一体感を持って進めていきます。ICONではチームワークを大切にしています。そのため、各種イベントの運営・企画を担当する「Social Committee」というチームが設けられていて、「Year-End Party」「Family Day」「Welcome Event」など、毎月のように社内イベントを開催しています。



ICONが大切にしていること

Osaka Office



Tokyo Office



大阪も東京もオフィスの壁にはたくさんのメッセージがたくさん描かれています。それらはすべてICONが大切にしたい思いばかり。ぜひ探してみてくださいね。

多様な働き方を提案するICONのワークライフバランス



在宅勤務

オフィス以外に自宅でのリモートワークが可能です。在宅勤務では会社が貸与した機器（パソコン・携帯電話等）を使用します。在宅勤務は、社員の働き方の選択肢拡大によるワークライフバランスの実現を目指して導入されています。



フレックスタイム制度

フレックスタイム制度は、業務の特性に応じて、始業および終業の時刻を自主的に決定し働くことで、仕事と生活との調和を図りながら、創造性を発揮し、生産性と業務効率の向上を図ることを可能とし、労働時間を短縮することを目的としています。コアタイムは10時～14時、フレキシブルタイムとして始業は5時～10時、終業は14時～22時としています。



時短勤務

小さなお子さんを育てながら働く人をサポートする制度です。お子さんが小学校3年生までの期間、労働時間を1日6時間までに短縮することができます。これによって、お子さんと一緒にいる時間を増やすことができ、仕事と育児が両立しやすくなります。

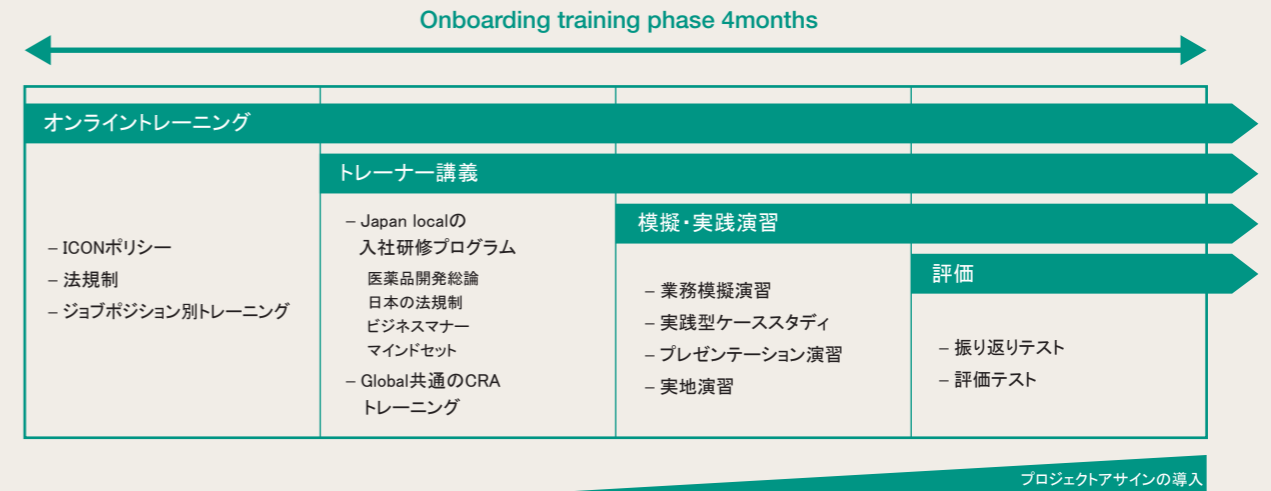
さまざまな休暇制度

名称	期間	内容
有給休暇	年14日	0.5日単位または時間単位の取得が可能。2年目以降勤務年数に従って付与日数が増えます。
疾病休暇	年10日	不測の負傷若しくは体調悪化のため直ちに療養する必要がある場合に申請が可能です。
バースデー休暇	年1日	誕生日の属する月に取得できます。
慶弔休暇	1～5日	自身や近親者の慶事（結婚、出産）や弔事（通夜、葬式）の際に取得できます。
生理休暇	必要な日数	生理日の就業が著しく困難なときに取得可能です。
産前産後休暇	産前6週間／産後8週間	自身の出産のために取得できます。
ファミリーケア休暇	年間3日	子や家族の看護のために取得できます。
育児休業	必要な日数	1歳未満は条件なしで、2歳以上は一定の条件内で取得できます。
介護休業	原則、通算93日	傷病のため介護を要する家族がいる場合に取得が可能です。
年末年始休日	12月31日～1月3日	年末年始休業のために取得できます。
フローティング休暇	年3日	取得する日には社員が任意に選択できます。
育児短時間勤務	労働時間を1日1.5時間短縮	子の療養のため取得することができます。（子が小学校3年生まで）

※平均有給休暇取得日数 11日（2023年度） ※年間休日124日（2024年度）フローティング休暇含

研修体制

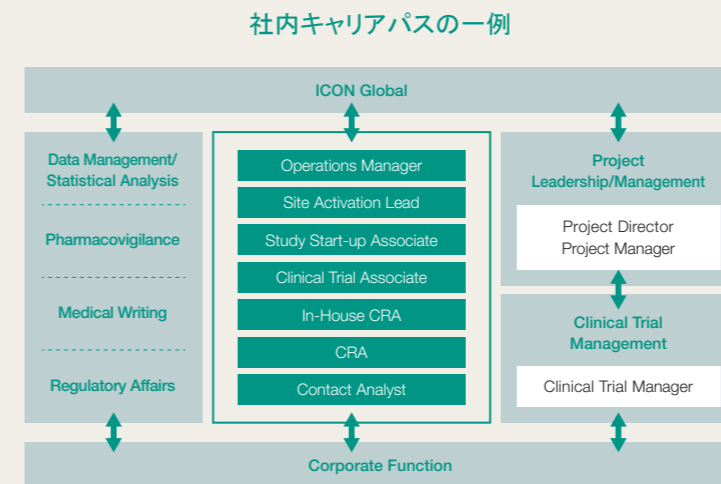
グローバル基準のトレーニング



グローバル治験が主流になった現在、他のリージョンのメンバーと一緒に仕事を進めるケースが多いため、トレーニング内容はICON Globalが提供するプログラムをベースに、国内の規定や商習慣を学ぶ内容を追加した内容となっています。入社後は4ヶ月にわたる導入研修があります。まずは同期入社メンバー全員が1か所に集合して、CRAとしての基本的な考え方や知識を学びます。その後は東京と大阪に分かれてさらに詳細な内容を学びます。トレーニングの後半はさまざまなロールプレイングを通じて、実践的なトレーニングを積みみます。トレーナーが提供する導入研修は基本的に日本人トレーナーが日本語で行います。習得スピードは個人差があるため、トレーナーが個人の理解度を確認しながら研修を進めます。もっと先に進みたいという人には推奨学習も用意されています。プロジェクトアサイン後もさまざまなトレーニング機会があります。プロジェクトに必要な知識を身につける研修はもちろん、入社1～2年後のリフレッシュトレーニングや、キャリアアップを目指す上で必要なロジカル・シンキングなどのケイバビリティを高めるトレーニングなど、多様な機会が用意されています。

キャリアパス

一人ひとりの社員が主役の会社



【新しいRoleへの具体例】

CRA→CTM (Clinical Trial Manager)

CTM→PM (Project Manager)

ICON JAPANのトレーニングポリシーは、「自分でレールを敷ける人材を育てること」にあります。CRO業界を取り巻く環境は日進月歩で進化しており、与えられるトレーニング機会だけでなく、自ら必要なスキルを見つけ出し、自発的に学ぶ能力が求められています。このため、私たちは社員一人ひとりの成長意欲に応えられるよう、ニーズドリブンのトレーニング体制を整えています。CRAとして立ち上がった後は、各自の興味や関心に応じてキャリアパスを広げることができます。上司との定期的な1on1ミーティングや社内公募制度を活用することで、多くの先輩社員が新しいポジションにキャリアアップしています。現在、ICON JAPANは成長期にあり、次々と新しいポジションが生まれています。昇進を目指すことも、新しい役割へのキャリアチェンジの機会も豊富にあります。個人の希望によるビジネスユニット間を超えた人事異動の実績も多数あります。さらに、キャリアパスは国内にとどまりません。希望すればICON Globalでの活躍も可能。あなたの活躍の舞台は世界に広がっています。

福利厚生


ICONでは、年額10万円*までの福利厚生補助金を提供し、社員のキャリア向上や生活をサポートしています。この補助金は自己啓発のためのスキルアップや、家族との絆を深めるための活動など、多岐にわたる用途に利用できます。以下にその一例を紹介します。


医療費	歯科治療費	薬
医療機器	視力矯正器具	健康診断
予防接種	個人保険料	旅行
フィットネスクラブ会費	フィットネス機器購入費	在宅勤務用機器
自己啓発のための講座受講料(語学など)		

※入社時期によって按分

ICONのサステナビリティ

ICONでは、持続可能な社会の実現を目指し、環境保護や社会貢献活動を通じて、未来のためのさまざまな取り組みを積極的に行っています。

5 ジェンダー平等を実現しよう

 ICONでは女性活躍を推進しており、経営層レベルで活躍する女性も多くいます。Vice President以上のポジションの約44%は女性、2025年までに50%を目指します。

13 気候変動に具体的な対策を

 ICONは以下の取り組みを実施しています。
 -2030年までにスコープ1及び2の炭素排出量を実質ゼロにします。(現在、2018年比で21.56%減少)
 -2030年までに電気使用量をkWh単位で20%削減します。(現在、2018年比で15.97%削減)
 -2025年までに、電力使用の100%を再生可能エネルギーとします。(現在、81.54%が再生可能エネルギー)

実施例
 オフィスの快適さと有効性を高めながらオフィス環境を見直し、持続可能な社会の実現に向けて様々な貢献をしています。(実施内容は海外拠点の含まれます)

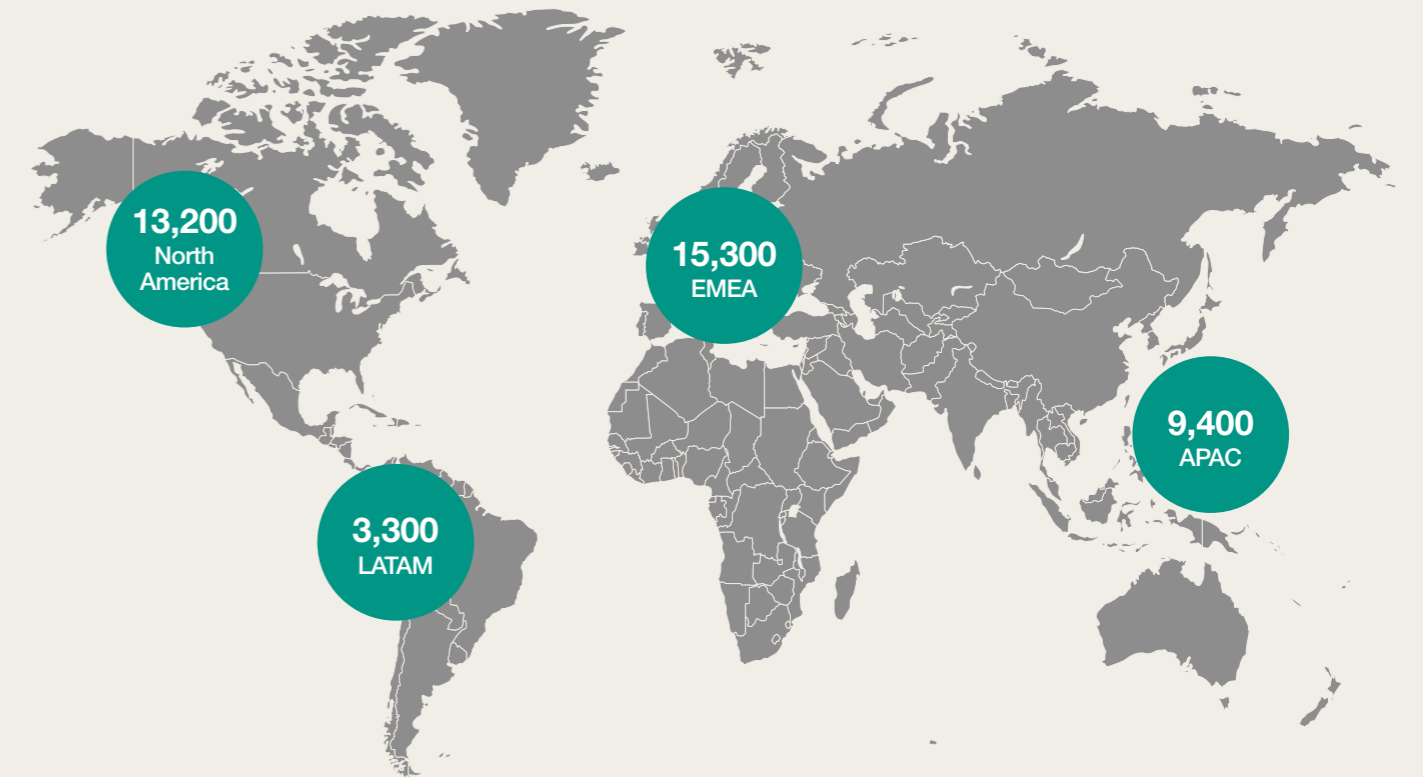
- エネルギー効率の高いLED照明の設置
- リサイクル事務用品の購入
- 紙消費の削減
- ビジネスセンターとキッチン/食堂のリサイクルエリアの構築
- 内部空気品質を改善するための緑のスペースの植え付け
- 建築資材の選択
- 自然光を取り込むための会議室、オフィス、その他のスペースの周囲ガラス

14 海の豊かさを守ろう

 東京、大阪それぞれで社外のボランティア団体が主催するゴミ拾いイベントに参加しています。



会社概要



会社名

ICONクリニカルリサーチ合同会社

代表者名

社長 小川 淳

事業内容

1. 前臨床試験の受託及び仲介業務
2. 臨床試験の受託・仲介又は実施業務
3. 医薬品・医療機器・再生医療等製品・ワクチン等にかかる臨床開発、市販直後調査、製造販売後調査、臨床研究等の受託事業
4. 医薬品・食品・精密化学薬品・化学薬品・医療機材に於ける事業提携・製品開発・登録・市場化・輸出入・営業等に関わるコンサルタント業務など

会社沿革

- 1990 ICON plc創業(本社:Ireland, Dublin)
- 1996 東京オフィス設立(ICONグループの初アジアオフィス)
- 2007 大阪オフィス設立
- 2021 ICON plcがPRA Health Sciences社を買収・統合
- 2023 日本法人を統合し、社名を「ICONクリニカルリサーチ合同会社」に変更



41,100 +
global employees

2024年5月時点



50 +
countries



100
locations

大阪オフィス(本社)

〒541-0056
 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号 大阪御堂筋ビル12階(受付)

東京オフィス

〒105-0001
 東京都港区虎ノ門四丁目3番9号 住友新虎ノ門ビル6階(受付)



<https://www.iconplc.co.jp/>